

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	非感染性慢性肝疾患の病態における自然免疫関連分子の発現解析			
2. 対象患者	以下の期間で、当院消化器内科・血液内科・膠原病内科にて肝生検を施行された方のうち、ウイルス感染以外の成因による慢性肝疾患と診断された方。また、転移性肝腫瘍と診断された方。			
3. 対象となる期間	2009年1月1日 ~ 2018年12月31日			
4. 実施診療科等	消化器内科・血液内科・膠原病内科			
5. 研究責任者	氏名	川口 章吾	所属	高度救命救急センター
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任)	なし			
7. 研究の意義	慢性肝炎とは慢性的に肝臓に炎症を生じる疾患のことで、肝硬変や肝臓がんの原因になることが知られています。これまで慢性肝炎の原因といえば、C型肝炎ウイルスなどのウイルス感染が主なものでした。最近ではウイルスに対する治療が進歩したため、ウイルス性肝炎自体は減少傾向となり、代わりに食生活の変化を背景として、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) が増加しています。食べすぎや運動不足などで摂取したカロリーが消費量を上回ると、肝臓で中性脂肪が多く作られ脂肪肝の状態になりますが、肝臓への過剰な脂肪沈着は肝臓の細胞を傷つけ、肝炎の原因となります。さらに炎症が続き、肝臓の細胞が障害され続けると肝臓は肝硬変の状態になります。その他にも肝硬変に至る疾患として、アルコール性肝炎や、原発性胆汁性胆管炎など特殊な慢性肝疾患がありますが、いずれの疾患でも一度肝硬変になるとそこから再び元の状態にもどるということはありません。そして肝硬変になると一定の割合で肝臓がんが発生します。そのため、後戻りできない肝硬変の状態になる前の時点で、適切に治療がなされることが極めて重要であると考えられます。最近、「自然免疫」と呼ばれるウイルスなどの病原体をいち早く察知し、それを排除する仕組みが注目されていますが、ウイルスが原因ではない慢性肝疾患の発症や進行、がん化においても、この「自然免疫」の仕組みが関与していることが報告されています。その詳細については十分に解明されていないため、我々はこの「自然免疫」の仕組みが、どのように慢性肝炎の進行に影響を与えているのか研究を行っております。本研究により新たな慢性肝炎の機序が解明できれば、新規の治療法につながることを期待されます。			
8. 研究の目的	ウイルス感染が原因ではない非感染性慢性肝疾患において、自然免疫に関連した各種分子の発現を解析し、発病や進行に関与しているのか検討することです。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	すでに肝生検が行われ、採取された標本を用いて行う研究ですので、患者様に新たな負担や費用が生じることはありません。肝生検の標本を用いて、自然免疫に関連するいくつかの分子の発現を免疫組織化学法と呼ばれる方法を用いて検討します。免疫組織化学法は、抗原抗体反応を利用して目的の分子の発現を可視化して調べる方法であり、各種疾患における発現の違いを比較することができます。また、既存の情報として診療録を利用して得られる性別、年齢、血液データなどの臨床情報を使用し、どのような因子と自然免疫に関連する分子の発現が関連するのか検討します。			
10. 個人情報の保護	解析結果は本研究以外に使用することなく、個人情報を外部に漏らすことは一切ありません。血液データなどの臨床情報は統計学的分析のみに使用され、個人を特定できる情報は公表されません。また、対象となる患者様より拒否の申し出があった際には速やかに該当患者様のデータを削除いたします。ただし、拒否の申し出があった時点で既に学会発表や論文投稿等、研究成果が公表されている場合、公表済みのデータの修正には応じられません。			
11. 利益相反に関する状況	研究責任者、共同研究者ともに、本研究に関して開示すべき利益相反関係にある企業や法人組織、営利を目的とした団体はありません。			
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター 川口章吾			
	電話	0172-39-5053	FAX	0172-37-5946